

[様式9-1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	光 保育園	施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会		

平成30年 2月14日

総 評	<p>法人理念「人として、豊かで、逞しい心と身体を育む」とし、保育理念は「明るく元気な子ども、誰とでも仲良く遊ぶ子ども、優しく思いやりのある子ども」と掲げ、理事長、施設長のリーダーシップのもと、温かい雰囲気 で長年保育実績を重ねてきています。</p> <p>「子どもたちの為に！」を第一に考え、思い切り運動あそびや球技ができる広い園庭や大型固定遊具の整備等、未来に向けた保育環境の充実にも努めています。</p> <p>また、保育ニーズの高まり、時代の変化に対応し、近隣の子どもたちだけで無く、市内各地域から入園希望も有り「共に育ち合う保育集団」を、保育基本方針のひとつとして、保護者からの信頼も得ています。</p> <p>地域高齢者、祖父母との交流や敬老会での和太鼓演奏、地域住民や卒園児を招いての夏祭り夕涼み会の実施等、多岐にわたり地域の保育園としての存在意義・役割を果たしています。</p> <p>また、家庭支援保育士を設置し、子育て支援、保護者支援に積極的に取り組んでいます。園長、クラス担任との連携・協働により、子ども理解、保育の質の向上にも取り組み、光保育園全体の充実を図っています。</p>
特に良かった点(※)	<p>○家庭支援保育士を配置し、カレンダー会議に参画し、関係機関との連携や協働で、子育て支援、保護者支援を積極的に取り組んでいます。クラス担任との連携も図られており、基本的な生活習慣の指導や子ども理解に努めています。</p> <p>○一人一人の子どもにきめ細やかに言葉をかけ、保育実践がされていました。子どもから主体的に活動し、遊びやすい環境が見られました。異年齢児で関わる「仲良しデー」を設けたり、保育者自身が保育内容を充実させていこうという取り組みがされていました。</p> <p>○園の情報は、ホームページに載せられ、保育理念・方針、保育の内容等が分かりやすく情報発信されています。「えがお～光保育園のしおり～」も、項目毎に分かりやすく、表やイラスト等で見やすくなっています。</p>
特に改善が望まれる点(※)	<p>○人材育成計画を含め、中期・長期運営計画を明文化されると良いでしょう。将来に向けて光り保育園の課題やビジョンが明確になることでしょう。</p> <p>○保育士の研修の機会がありますが、個別研修計画は作成されていません。定期的な見直し、整備をされるとより良いでしょう。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

【様式 9-2】

【保育所版】 評価結果対比シート

(注) 判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	光 保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成29年12月14日

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	b
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	b
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	b
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	b
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	b
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a

[自由記述欄]

・保育理念、保育方針、保育目標は明文化され、園紹介パンフレット、ホームページ等に掲載されています。「えがお～光保育園のしおり～」には、光保育園の概要、理念・方針、一日の過ごし方、災害時の避難場所等、保育内容が分かり易く掲載されています。また、それを活用して入園・進級説明会や入園式等で説明し、保護者に配布しています。保育士等については、職員会議等を通して説明し、周知・共有理解を図っています。

・管理職は、地域の子どもを含む人口動態や周辺データを収集し、経営環境や課題について把握に努めています。

・家庭支援保育士を専任で1名配置しています。その役割は、保護者への子育て支援、悩み相談の受け付けや、クラス担任と連携し、子ども一人一人と丁寧に関わる体制に繋がっています。月一回地域関係機関及び小中学校等とカレンダー会議を実施し、地域のニーズや乳幼児、学童児の動向、理解把握に努めています。法人の課題や今後のビジョンについて、より具体的に文書化しつつ明示できればより良いでしょう。

・理事長及び管理職は、具体的な方針を職員・保育士に示し、園庭の拡張（平成28年度）や開園20周年記念大型遊具の設置等、子どもたちのために環境整備に取り組んでいます。中期・長期に分けた具体的な計画が作成され、関係者と共有出来れば、さらに良いでしょう。

・保護者アンケートを行事毎に行い、意見収集をしています。寄せられた意見には、園長自らが返答・園の想い等を書き添え対応をし、行事の評価・反省に繋げています。保育の質の向上という視点から、行事の見直し、保育全般に関わる全体計画を作成中で、より充実した保育の実施に向け、取り組んでいます。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果		
					自己評価	第三者評価	
II-1 管理者の責任と リーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a	
		11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	b	
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a	
		13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	b	
II-2 福祉人材の確保・ 育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事 管理の体制が整備されている。	14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	b	
		15	②	総合的な人事管理が行われている。	a	b	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	a	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	b
			18	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	b
	19	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a		
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる 専門職の研修・育成が適切に行わ れている。	20	①	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	b	
II-3 運営の透明性の確 保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取 組が行われている。	21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a	
		22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	b	
II-4 地域との交流、地 域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されて いる。	23	①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a	
		24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	b	
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されて いる。	25	①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a	
		II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を 行っている。	26	①	保育所が有する機能を地域に還元している。	a	a
			27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]

- ・施設長は、遵守すべき法令等について把握し取り組んでいます。今後は、全職員が常に確認できるよう工夫されるとより良いでしょう。
- ・施設長と全職員の面談を年1回実施し、要望・相談・就業状況等の意向を把握するよう努めています。新人育成計画・個別職員育成に向けた目標や法人の基準等を設け、取り組まれると良いでしょう。
- ・保育士等の業務内容を鑑みながら、一人一人に適した研修参加の機会を設けています。今後は、園が期待する職員・保育士像を明確に示すことで、人材育成・保育力アップに繋げるため、個別研修計画を明文化し、参加の目的や意図を共有するよう取り組まれると良いでしょう。
- ・実習生受け入れに対し、園の保育方針等を明文化したものを提示しつつ保育に係る人材の育成に取り組んでいます。今後は、保育実習のスケジュールや留意点をマニュアル化し、普遍的に対応できる体制づくりに取り組まれると良いでしょう。
- ・月1回、地域の保幼小中と合同で行うカレンダー会議への参加や、夕涼み会、敬老祝賀会での園児和太鼓演奏披露等、多岐にわたる地域との交流行事に取り組む、地域の中で保育所（園）として、その役割を果たしています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果		
					自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a	
		29	②	子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	a	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a	
		31	②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a	
		34	②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a	
		35	③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a	
		38	③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a	
		39	④	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
			41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
		Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	a
			43	②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a	
		45	②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a	

[自由記述欄]

・「えがお～光保育園のしおり～」にプライバシー保護、人権についての園の姿勢が明記されています。保育では性差への固定的概念を植え付けないように配慮したり、肌の色の違う人形等を取り入れ、世界の人々にも目が向けられるようにしています。

・園児個人記録等は、決められた場所（書庫）に保管し、取り扱いには十分配慮がされていました。

・園の情報は、ホームページに載せられ、保育理念・方針、保育の内容等が分かりやすく情報発信されています。「えがお～光保育園のしおり～」も、項目毎に分かりやすく、表やイラスト等で見やすくなっています。

・連絡帳活用、ご意見箱設置、アンケートの実施等に加え、家庭訪問やクラス懇談会で保護者が様々な意見を述べやすい体制をとっています。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 保育課程の編成	46	①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a	b
			②	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	③	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
			④	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
			⑤	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a
			⑥	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			⑦	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			⑧	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			⑨	障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			⑩	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			⑪	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a
			A-1-(3) 健康管理	57	①	子どもの健康管理を適切に行っている。
	②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。			a	a
	③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。			a	a
	A-1-(4) 食事	60	①	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
			②	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄]

・保育課程については、平成30年度からの改定保育所保育指針運用にむけ、「全体的な計画（案）」が編成されていました。今後も在籍する子どもたちの心身の発達や家庭、地域の実情に応じて、保育に関わる職員参画の下、定期的な見直しが行われるとなお良いでしょう。

・サッカー、ドッジボール、築山登り等、身体全体を動かして活動できる広い園庭と、大型固定遊具やごっこ遊びができるテーブルと椅子等が配置された、2カ所の園庭があります。花壇やプランターには季節毎の野菜や花が植えられ、自然物に興味関心が沸くような環境構成に努めています。

・早朝及び夕方の長時間保育や、年齢クラス毎の保育室は、保育士等が話し合い、子どもたちが遊びを選択（ブロック、お絵かき、絵本、ままごと等）できるような配慮をしていました。また、毎週火曜日には「なかよしデー」とし、3、4、5歳児が縦割りグループで様々なごっこ遊びを通して、触れ合い関わりあえるよう、遊びを展開しています。保育記録に、子どもたちの具体的な様子、プロセス等が記載されるとさらに良いでしょう。

・食物アレルギーのある子どもには、医師の診断書に基づき、代替食及び除去食を提供しています。

・切り干し大根を作ったり、園庭で育てたほうれん草、玉葱等をクッキングで使ったりと身近な体験で「食育」を進めています。2歳児からはランチルームで食事をとり、献立について会話をしたり、食事マナーの掲示物を見たりして食事を楽しんでいました。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	①	保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	b

[自由記述欄]

・0～2歳児には連絡帳があり、家庭より体温・睡眠時間・排便・夕食、朝食内容等を記入してもらい、園からは午睡時間・排便の有無・昼食量・遊びの様子等を記載し、保護者との情報交換、連絡を密にしています。幼児の保護者には、送迎時、挨拶だけでなく、その日の活動内容を伝えるよう努力するなど、コミュニケーションをとる姿が見られました。家庭支援保育士が保護者からの相談を受けたり、気になる様子の保護者に声をかけたりして、子育て支援に取り組んでいる記録を確認しました。

・虐待予防については、マニュアルを整備し、関係機関との連携をとりながら、早期発見、早期対応に全職員で取り組む体制が整えられていました。

・毎年12月に、保育士は保育を振り返り、自己評価及び反省をしています。保育実践の改善や保育の専門性の向上に繋がる取り組みです。今後は、自らの保育を捉える視点等の明瞭化に努め、文章表現のバラツキを改善されるとなおいでしょう。